



8月27日、猛暑の中、「学んで、笑って、そして遊べ！」をテーマに森のフェスティバルを開催しました。約450名が来場され、地域住民、利用者と家族が集い、多世代交流の場となりました。

会場では地元パフォーマーによる特設ステージやキッチンカーの出店、SDGsを意識したワークショップ

今年、森のフェスティバルを開催し、人々が集い交流することの大切さを再認識することができました。4年ぶりの開催で、プロジェクトメンバーの入れ替わりや経験不足からの戸惑いもありましたが、地域の方々が多くのボランティアの協力があって、成功することができました。そして、この経験が私たちの自信と成長に繋がり、これからの地域福祉への挑戦の第一歩となりました。

最後に、来館して下さった地域の皆様、協力いただいた関係者、地域クリエイターの方々に感謝申し上げます。これからも、地域福祉の発展に向けて活動してまいります。

「笑う町には、人集う」

地域との共存

『森のフェスティバル2023』待望の復活

しょう
うん

第100号
発行：令和5年10月1日

豊悠福社会
祥雲館

〒563-0101
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1
TEL：072-733-2301(代表)
FAX：072-733-2303

番号をお間違いないようご注意ください

『笑雲』100号発行に寄せて

当法人広報紙『笑雲』は、今回の発行をもって記念すべき100号となりました。祥雲館開設と同時期に『すみれ通信』として初版を刊行しました。まだ介護施設になじみが薄かった地域の皆様に、ご利用者の日々の暮らしがよりや介護の取組みや、施設で実施されるイベントなどを紹介し、介護福祉を知っていただくよう町内全戸に配布してまいりました。

『すみれ通信』発行当初は、有志数名が広報委員として携わり、十分なデジタル環境がない中、紙面構成・印刷など全ての行程が手作業でした。掲載写真はフィルム写真を切り貼りし、校正した原稿を輪転機で印刷、インクにまみれながら毎号思いを込め完成させ、ご家庭へ届けてまいりました。

IT社会となった現在、情報発信はデジタル化が当たり前となつていますが、紙面ですべての広報を担うことは、紙の重さやコスト、環境への配慮など、さまざまな課題を抱えています。『笑雲』の役割は、トピックスを紹介するだけでなく、事業方針や福祉政策への提言など、紙面から祥雲館や福祉を身近な存在と感じていただくことです。

『笑雲』100号刊行に際し、継続は力なりを実感し、皆様からのご意見を糧に、これからも多くの方に『笑雲』を手にとっていただける紙面作りを続けてまいります。

今後ともご愛読、よろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人豊悠福社会
総合施設長 井口 仁

周辺案内図

『笑雲』100号発行に寄せて

紙面で全戸へ配布する広報紙は重要性を増すものと考えます。『笑雲』の役割は、トピックスを紹介するだけでなく、事業方針や福祉政策への提言など、紙面から祥雲館や福祉を身近な存在と感じていただくことです。

『笑雲』100号刊行に際し、継続は力なりを実感し、皆様からのご意見を糧に、これからも多くの方に『笑雲』を手にとっていただける紙面作りを続けてまいります。

今後ともご愛読、よろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人豊悠福社会
総合施設長 井口 仁

各施設の
面会状況

祥雲館では毎日面会を行っています。各施設の詳細は次のとおりです。

- 特別養護老人ホーム ☎072-733-2356
14時～16時（1回30分）3人まで
10/1より事前連絡は不要となります。
- セカンド・リビング ☎072-733-2252
14時～16時（1回15分）要予約
2人まで
- ショートステイ・リビング ☎072-733-2251
14時～15時（1回30分）要予約
人数制限なし
- やわみどり ☎072-733-2182
10時～11時、13時30分～15時30分（1回30分）
※面会日時及び人数は入居者にご相談ください

笑雲 Café 第50回 共に考える！住みたいまちをつくる

笑雲caféは50回目の開催を迎えます。今回のテーマは、「一人一人のアイデアが地域を変える」です。ゲストスピーカーとして、3回目の登壇となるSDGs市民社会ネットワーク理事、新田さんをお迎えします。

私たちの町をより持続可能で魅力的な場所にするためには、皆さんのアイデアが必要です。笑雲caféでは、地域社会の課題について共有し、具体的な行動につなげる場を提供します。アイデアを出し合い、未来の豊能町を築くためのステップをともに学びませんか。

【日時】 令和5年10月28日(土) 13時～15時
【場所】 豊悠ホール（豊悠福社会本館2階 豊能町吉川187-1）
送迎あり（集合場所・時間は申込時にお伝えします）
【定員】 20名 ※参加費200円（お茶菓子付き）
（注）開催時間・場所が前回と異なりますのでご注意ください。

お申込み：祥雲館 ☎072-733-2301（10月12日まで）
※送迎を希望される場合は、申し込み時にお伝えください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

お知らせ

【第3回 認知症サポーター養成講座】

日時：11月18日(土) 10時～11時30分
場所：祥雲館ヴィレッジ・すみれ (ときわ台2-15-2)
定員：10名 (無料)
申込み開始：10/2(月)より
申込み・お問合せ：ケアプランセンター祥雲館
☎072-733-2302
※駐車場なし、送迎は応相談。



【走るデパ地下 阪急のスイーツ移動販売】

日時：11月15日(水)
14時30分～15時30分
場所：特別養護老人ホーム祥雲館 (吉川187-1)
デパ地下スイーツのお買物をお楽しみいただけます。



TOPICS

★NHK大阪ほっと関西で紹介されました

夕方のTV番組「NHK大阪ほっと関西」にトヨノコレクションの取材をしていただきました。取材当日は、トヨノコレクションでモデルになっていた地域の皆様にも集まっていただき、和気あいあいと当時を振り返りました。



★阪急のスイーツ移動販売

7月14日、「阪急のスイーツ移動販売」がやってきました。今回は移動販売が本格始動の初日ということで、TV各局からの取材もあり、町中がホットな一日となりました。



★第49回笑雲café

7月28日、国崎クリーンセンターゆめほたるで、笑雲caféを開催しました。ゴミ処理場の見学やゴミの豆知識や風呂敷バックの作り方ワークショップなど、学びの一日となりました。

★地域の盆踊り大会に参加

今夏より、地域のお祭りも再開しました。地元自治会の夏祭りにも参加させていただき、フルーツや焼きそば販売、スマートボールゲームやスーパーボールすくい等で出店し、たくさんの方々と交流ができました。



★パン屋さんレク

本館ガーデンで、1日パン屋さんを営業しました！ いろいろなパンが並び、好きなパンを取って食べるピュッフェ形式です。職員も販売員になりきり、楽しいひとときでした。



TOPICSはホームページでも詳しくご覧いただけます。

祥雲館

検索

facebookはこちら➡

祥雲館 facebook

検索

イベントや日常の様子は公式SNSで随時配信しています。



次号は、令和5年12月25日～31日配布予定です。

SDGsをテーマに「持続可能なワークショップ」

森のフェスティバルでは、身近なテーマから持続可能な開発目標(SDGs)について考える体験型ワークショップを行いました。今回特別に、ランドセルリメイクのルールさんと手縫い革小物作家のRAULAさんに協力をいただき、「ランドセルReining」を企画しました。再利用できず眠っているランドセルのパーツを組み合わせて作るキーホルダーです。たくさんの方に作っていただきました。その他、ハンドトリートメントの実演や、野菜の切れ端から作るせっけんなど、健康と自然を意識しながらSDGsを考



える機会となりました。また、自分が実践しているエコ活動を付箋に書いて貼る「エコの木」ブースも好評でした。そして、森のフェスティバルの一大イベントの「水ふうせんDEバトル」は、4年ぶりのブルンクを感じさせない熱気に包まれました。当然ながら、私たちがスタッフも参加し、童心に戻ってはしゃぐことができました。

マネしたくなる支援

祥雲館では、ホスピタリティを大切にしたいと考えています。今月も実践事例を紹介いたします。

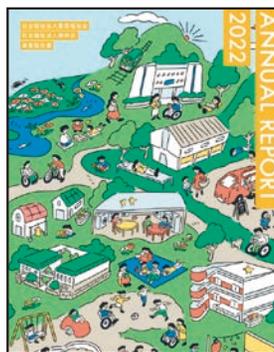
エピソード

「しんどいの～入りたくない」と入浴をいやがる利用者さん。まるで職員のお風呂に入りたいと焦る心の声を敏感に察知しているかのようです。そこで、職員は施設で決まった入浴時間に誘導するのではなく、その様子を観察し、ここぞ！ というタイミングで声掛けしました。すると自分から率先して、お風呂に入られました。この出来事から、拒否なく入浴される機会も増え、笑顔も多くみられるようになりました。

入浴を拒否される利用者は少なくありません。祥雲館では、利用者の行動や表情を観察し、タイミングをみて気持ち良く入浴していただくよう心掛けています。

『アニュアルレポート2022』刊行のお知らせ

このたび、社会福祉連携推進法人リゾムウェルより『アニュアルレポート2022』を発行しました。祥雲館ホームページでも公開しています。



編集後記

笑雲59号(2013年7月)より10年間、笑雲の編集に携わってきました。嬉しいことに、今号で100号目の発行となりました。これまで笑雲を通じて地域福祉を身近に感じていただけた情報発信してきました。毎回楽しみにしていただき、声をかけていただくことがとても励みになっていきます。これからも、地域コミュニティに溶け込み、親しまれる広報紙となるよう続けていきたいです。

広報担当 滝本